

# 鹿沼カントリー倶楽部 北・南コース

## 決勝競技

コロナ禍も、悪天候も乗り越え  
競技をまっとうした選手、関係者に拍手！

決勝には、各地区予選を勝ち抜いた39倶楽部(234人)が出場した。関東ゴルフ連盟(KGA)で最も伝統ある競技も、昨年はコロナ禍で中止となり、2年ぶりの開催。会場となった鹿沼CCがある栃木県鹿沼市は木工業が盛んな街で、最近では30年以上傷まず使用できるといわれる「鹿沼ほうき」の職人と、東日本大震災で心に傷を負った母子家庭の少女との触れ合いを描いた映画「ほうきに願いを」が話題を呼んだ。

ただ、そのようなアートの香りに漂う地で開催された競技も、新型コロナウイルスの影響は避けられず、全チームが集って競技のフィナーレを盛大に飾る表彰式は行わないことを事前に通告。また、応援に駆けつけた各倶楽部のメンバーやスタッフが集うテントブースの設置も見送

られ、例年のようなお祭りの様相は消え去った。それでも倶楽部の名誉をかけて試合に臨んだ選手たちはスタート前から表情に緊張感を漂わせ、例年以上の熱戦を繰り広げた。チームは55歳以上のAクラスと年齢制限なしのBクラス各3人の計6人で構成し、各クラスの上位2人、計4人の合計スコアで順位を決定。タイの場合はBクラスの3人目↓Aクラスの3人目のスコア順で決まるため、最後の1人が上がってくるまで順位が確定しない。その中で2位の鷹之台CCに3打差をつけて優勝した東千葉CCは、トップスタートの日本ミッドアマ王者・豊島豊選手(43)がベストスコアタイの69で回ったのに加

### 関東倶楽部対抗 決勝競技

2021年6月17日(木) ● Aクラス:北コース(6454Y・P72) / Bクラス:南コース(6579Y・P72) ● 参加倶楽部数:39 ● 出場選手数:234 ● 競技方法:A・Bクラスともに各3名出場。各クラス上位2名、合計4名の合計スコア

#### 最優秀選手賞

Aクラス:土田 恭章(藤岡) / 和田 博(袖ヶ浦) 69  
Bクラス:豊島 豊(東千葉) / 鈴木 優也(津久井湖) / 山野 貴之(鷹之台) 69

#### 上位5倶楽部

- 1位 東千葉カントリークラブ / 286ストローク
- 2位 鷹之台カントリー倶楽部 / 289ストローク
- 3位 姉ヶ崎カントリー倶楽部 / 292ストローク
- 4位 嵐山カントリークラブ / 292ストローク
- 5位 富士カントリー笠間倶楽部 / 294ストローク



# 部 対 抗

## ならずの制覇達成!

「Aクラス」



和田 博(袖ヶ浦)

土田 恭章(藤岡)

最優秀選手賞

「Bクラス」



鈴木 優也(津久井湖)

山野 貴之(鷹之台)

危険



**優勝** 東千葉カントリークラブ



Bクラス最優秀選手の豊島豊

え、3選手が71〜74と安定した力を見せ、大会3連覇、通算10度目の頂点に立った。  
 今年はコロナ以外にも難関に襲われ、試合前日は激しい雷雨のためにコースセッティングを行えず、競技委員は当日の午前4時50分に集合して準備に奔走した。鹿沼CCも近隣の鹿沼グリーブのゴルフ場からグリーンキーパーらが応援に駆けつけ、早朝からバンカーの水を抜くなどのコース整備に追われ、7時30分スタートに間に合わせた。さらに試合が終盤に差しかかる午後2時前には豪雨が再び襲い、選手はいったんクラブハウスに引き上げて約1時間の中断となった。  
 そのような中で競技を完了した2021年の倶楽部対抗。各倶楽部や選手も、コロナ禍で研修会や試合が1年以上も思うようにできない状況から、ここまでこぎ着けた。優勝した東千葉CCの豊島選手さえが「試合をすつとやっていたなかつたし、スコアをつけてラウンドしたのさえずり久しぶりだった」と言う。来年は通常に戻って開催できることを、誰もが願っている。

(鈴木遍理、広報参与)

**関 東 倶 楽**

**1年のブランクも障害にな  
東千葉が3連覇、10度目**



室野 歩

上重 修



庄司 由



倶楽部対抗は、出場する選手それぞれに強い思いがある競技です。それが今回は2年分ですから、なおさらでしょう。

いつも言っていることですが、我々競技委員の任務は、選手が気持ちよくプレーできる舞台を整え、スムーズな運営を実現することです。

ところが、今回は前日の午後に猛烈な雷雨に襲われ、予定していたコースセッティングがキャンセル。翌日は早朝4時50分に集合し、急ぎその作業に当たりました。それでも鹿沼CCさん、ならびにグループのゴルフ場からの応援のスタッフの献身的な管理作業で、予定通り7時30分に競技を開始できたことに心から感謝いたします。

ところが、お昼過ぎに豪雨による「中断」。その10数分後には雷雲の接近で「即時中断」。安全のため、選手全員にクラブハウスで避難してもらうことを決め、その連絡と状況把握などで本部は大忙しでした。しかし、幸い雷雲の動きとコースコンディションの状態から、夕方までの競技完遂の見通しがついていました。

とにかく全選手にラウンドを終えさせてあげたかった。なぜなら、個人競技なら途中で投げ出したくなるタフな状況も、倶楽部対抗では選手は最終ホールまでベストを尽くすでしょう。そうした経験はその後のゴルフや人生にとっても役立つと思っからです。

最後に、今回競技完遂が出来たことについては、コース管理や競技運営にかかわった関係者、そして選手の皆さんにお礼を申し上げます。

## 選手のために、 なんとしても最後まで

関東ゴルフ連盟  
内藤正幸競技委員長



グリーンの水はけの良さが早い競技再開につながった。



無事、最終ホールまでプレーできたからこそ  
の素敵なシーン。



# プロジェクトを組んで、 2年越しの準備

鹿沼カントリー倶楽部  
米谷彰子支配人

この競技開催の話を頂戴したときから、KGAを代表する競技で、トップアマチュア選手も多数来場されるというので、最高のコースコンディションでお迎えしようと、鹿沼CCだけでなく、鹿沼グループ(全3ゴルフ場)を挙げてプロジェクトチーム(PT)を作り、この日に備えました。

ところが、それが1年伸び。そして、ようやくと思ったら前日の豪雨です。コースの状態をキーパー(豊田一弘氏)に確認すると、「明日、予定通りのスタートは難しいかも」との答え。それで急遽、グループのゴルフ場に応援を依頼。手伝えるスタッフ(約20名)は翌朝4時に集合し、バンカーの修復作業に当たりました。

(その結果、競技は予定通りスタート。だが、午後には雷雨による即時中断と全選手のクラブハウスへの避難で、キャディーマスター周りが大活躍することになる)



ずぶ濡れの選手のために急遽、バスタオルが配られた。当初の想定にはない、その場の判断と米谷支配人は語る。



14時過ぎ、雷雲接近のため即時中断。全選手がクラブハウスに避難。



担当スタッフは、戻ってきたカートに対し駐車位置を指定する。



雷雲が去ると、競技委員はコースチェックのために集合。そのまま再開の準備に当たった。